

210129 中国、四国、九州の状況について

大分県に昨年11月半ばごろからMAX60万近い塊状のデータが出て、12月下旬ごろ一気に減衰しました。その後、小さいデータが上下を繰り返して、ゆっくりと減衰してきます。こうした塊状の大きなデータは山の形をつくらずに一気に減衰してしまい、収束のタイミングがわかりにくいので発震日の予想もつきにくいです。しかし過去にはこうした塊状のデータが出たあとに大型の地震が発生して被害が出た事例がいくつもあることから十分な警戒が必要です。

また今回の大分県データが懸案になっている高知市介良の長期データの減衰と同期している場合はさらに危険なデータとなり、大分を中心にした九州から豊後水道、日向灘の大地震につながる可能性があります。2016年4月はこの高知市介良の長期データが減衰して、熊本地震M7が発生しています。

以下に九州、四国、中国（広島）の関連データを載せますので参考にしてください。

大分県 90日データ



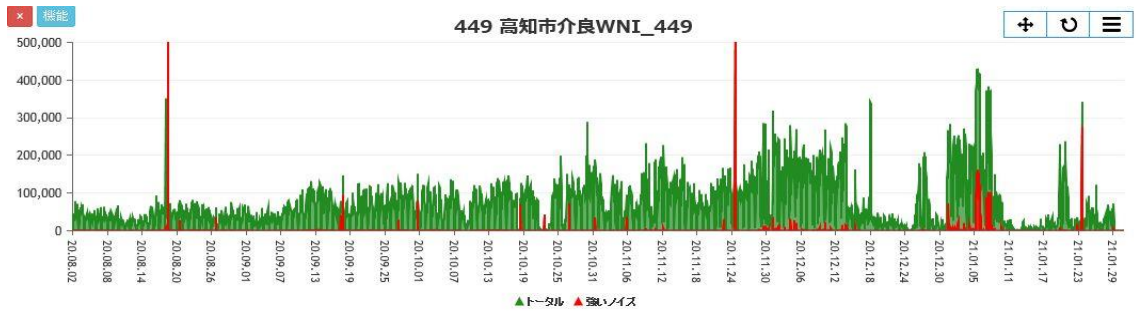
大分県 60日データ



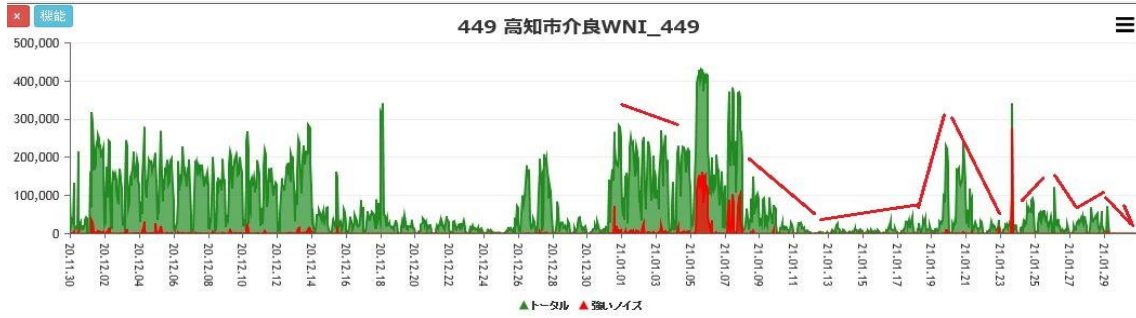
佐賀 30日間データ



高知市介良 180日間データ



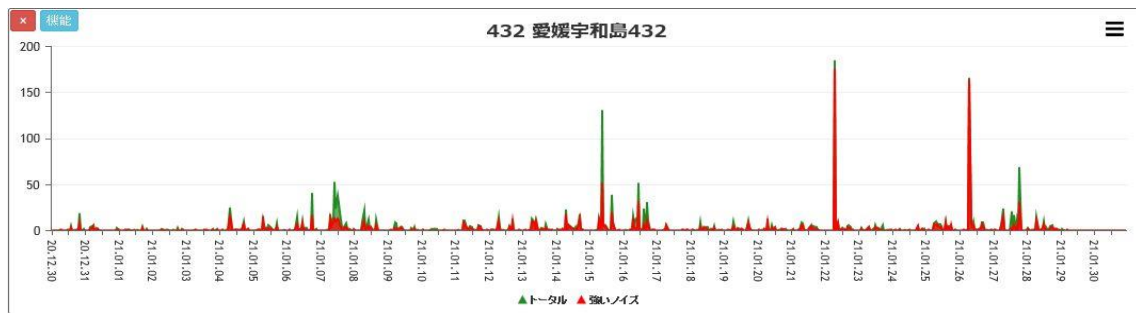
高知市介良 30日間データ



高知市八反町 30日間データ



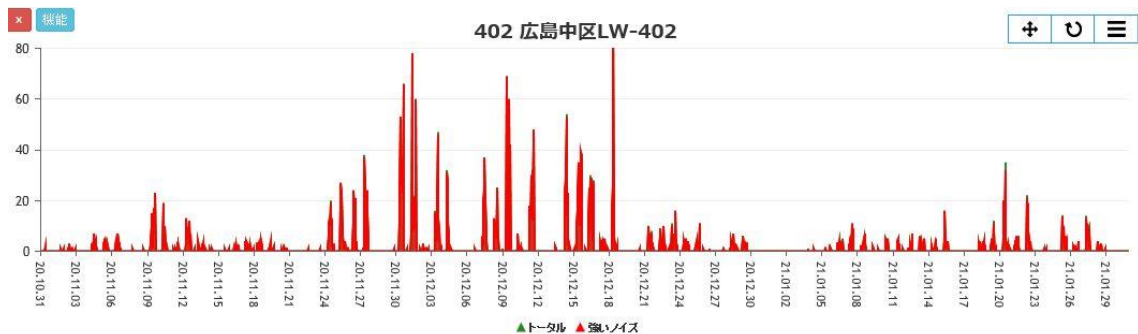
愛媛 宇和島 30日間データ



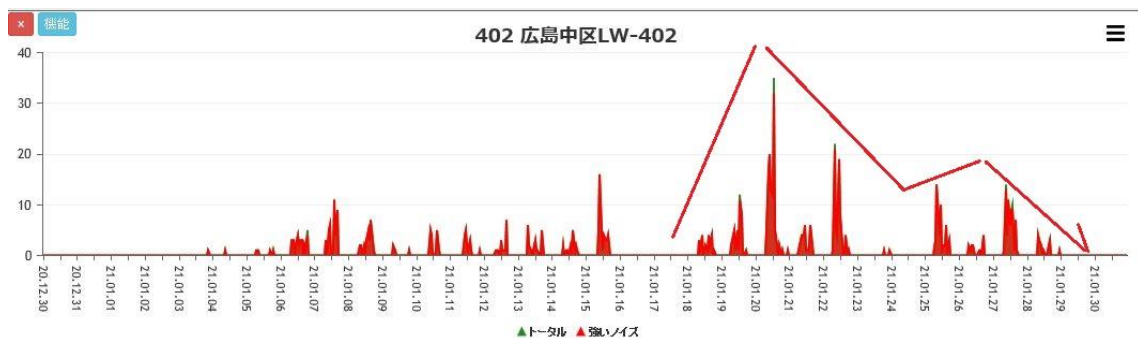
愛媛 宇和島 15日間データ



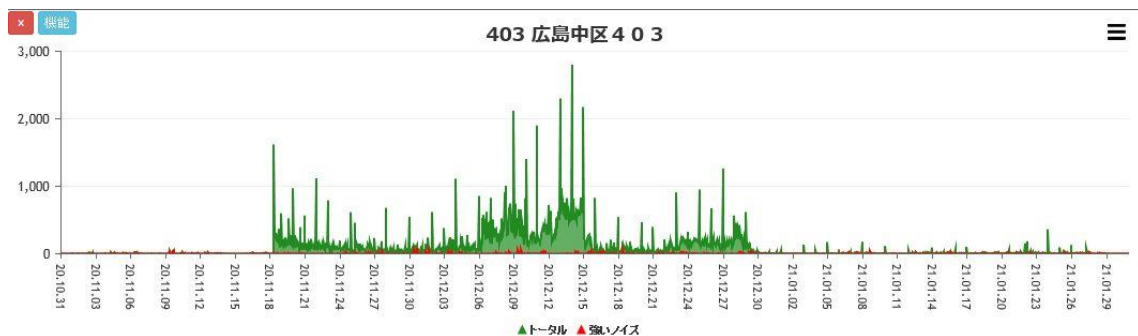
広島中区 402 60日間データ



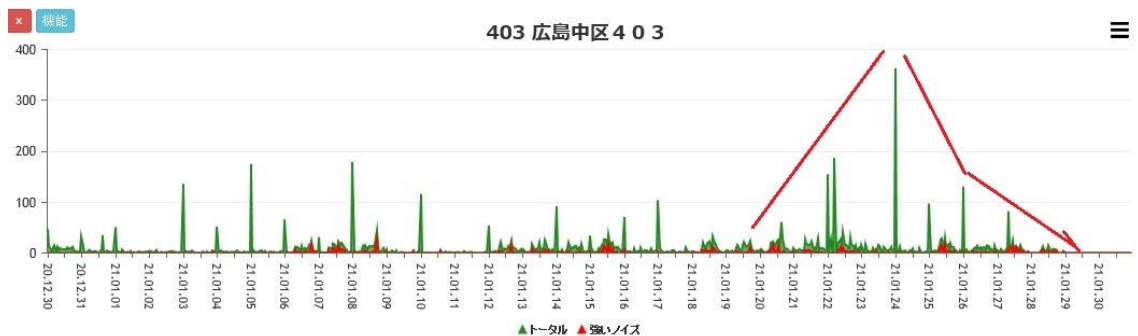
広島中区 402 30日間データ



広島中区 403 60日間データ



広島中区 403 30日間データ



位置関係



宏观現象：1月28日島根県出雲の漁港に大王イカ



2021年1月28日ダイオウイカ島根県出雲市の漁港 体長6メートル